



ニットクの屋根用遮熱塗料シリーズ 標準色見本帳

【初版】



2液型弱溶剤フッ素樹脂塗料

パラサーモフッ素

2液型弱溶剤シリコン樹脂塗料

パラサーモシリコン

2液型弱溶剤ウレタン樹脂塗料

パラサーモN



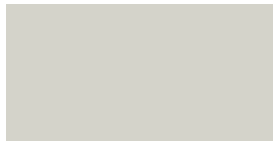
標準色

●「パラサーモフッ素」と「パラサーモシリコン」は全色(22色)からお選びいただけます。 ●「パラサーモン」は⑧～⑳の15色よりお選びください。

「パラサーモフッ素」「パラサーモシリコン」標準色



①エコホワイト

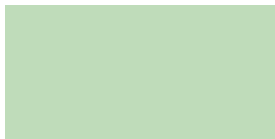
②エコライトグレー




③エコソフトグレー




④エコライトブルー

⑤エコライトグリーン




⑥エコサンドベージュ




⑦エコベージュ


「パラサーモン」標準色



⑧エコグレー




⑨エコマウスグレー





⑩エコブリックレッド





⑪エコラシッドレッド




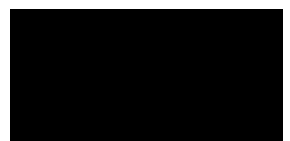

⑫エコスレートブラウン




⑬エコガーネットレッド※




⑭エコマリンプルー




⑮エコブラック




⑯エコスレートブラック





⑰エコクラウドグレー




⑱エコココナッツ




⑲エコチェスナット





⑳エコグラスグリーン※




㉑エコオリーブ※




㉒エコディープブルー


※  印はクールランクを表します。3ページの特長④の表をご参照ください。

- 色見本は、経時変化により変色しますので、直射日光の当たる場所や高温多湿の場所には保管しないでください。
- 広い面積に塗られた場合、見本帳のカラーチップと多少違って見える場合があります。
- 品種により、標準色に含まれない色や対応できない色があります。
- 品種により、同じ色名でも色相および仕上り外観(艶)などに多少の相違がある場合があります。ご了承ください。
- この色見本は紙に塗装しておりますので、実際の仕上りとは多少の色違いが生じる場合があります。ご了承ください。
- 特殊な顔料を使用しておりますので、膜厚や標準以上の希釈量では色目は少し変わります。ご注意ください。
- 色相により、遮熱効果が異なりますのでご注意ください。詳細は最寄りの営業所までお問い合わせください。

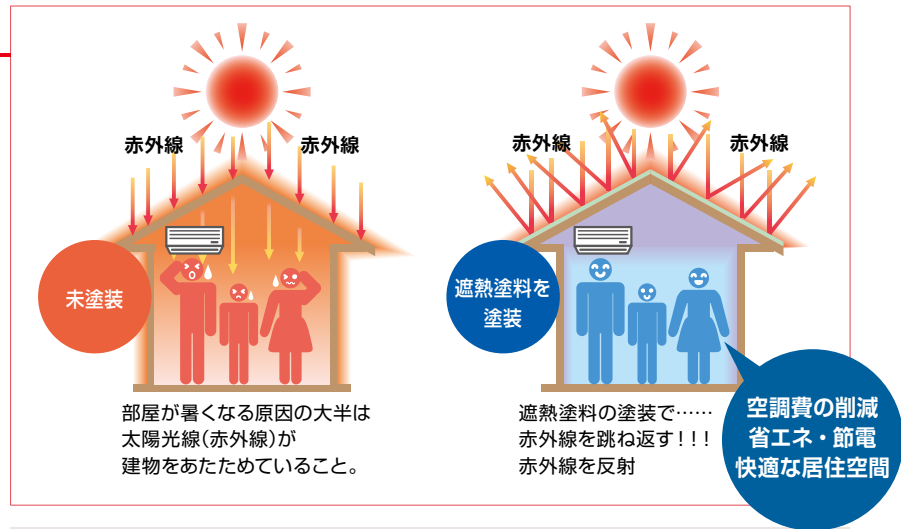
※印の標準色(3色)は割高(2~3割程度)になります。

●本色見本帳のPDF版をカラー出力された場合、この色見本帳に掲載しています標準色とは著しく色の相違があります。PDF版のカラー出力やパソコンのモニターをご覧になってのご注文は、お受けできません。標準色の指定、選定、ご注文は必ず現物の色見本帳をお願いします。

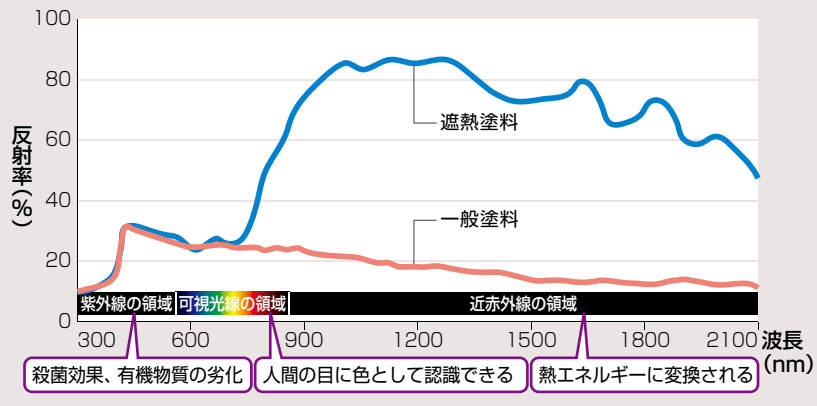
発売から20年以上の実績 省エネ・遮熱塗料「パラサーモ」シリーズ。

特長 1 遮熱の仕組み

太陽光中の赤外線は、物体にあたって吸収し、熱エネルギーに変換し、あたためる効果があります。
遮熱塗料は、特殊顔料を用いることにより、赤外線を反射させ、熱エネルギー変換を抑制する特長があります。
そのため、遮熱塗料を塗装した屋根は、一般的な屋根に比べて温度上昇を抑制する効果があります。



●遮熱のメカニズム(色相：N-70相当)



特長 2 優れた遮熱性

太陽光に対する反射率に優れた着色顔料と熱放射率に優れたセラミックに、当社独自の技術によりそれぞれの樹脂を融合。各種屋根材に塗装することにより、室内への熱の侵入を遮断し、室内の温度上昇を抑えることができます。エアコンなどの空調設備の省エネ効果に抜群の性能を発揮します。

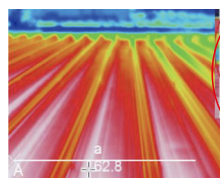
●**ご注意**：施工する色より既存塗膜が淡彩系の場合、遮熱(温度低減)効果が得られないケースもございますのでご注意ください。詳細は最寄りの営業所にご確認ください。

●施工現場温度測定事例

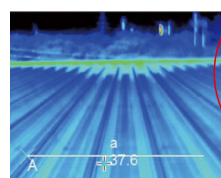
施工前後の屋根表面の温度測定(サーモグラフィーNEC Avio赤外線テクノロジー株式会社製 R-300)を行ないました。施工前後で最も差の大きい部分の比較を行ないましたところ

①施工前 8/9 最高到達温度 約**65.0℃** ②施工後 8/21 最高到達温度 約**40.0℃**
となり約25.0℃の温度差が確認されました。

●施工前 8/9



●施工後 8/21

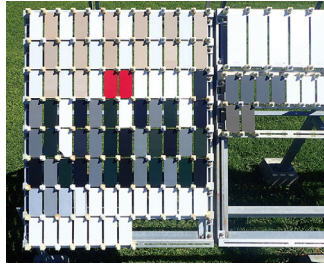


●測定場所：大分県某工場鋼板屋根 ●測定時期：2018年8月中旬 ●施工材料：パラサーモシリコン エコホワイト

特長
3

抜群の耐久性

屋根は太陽光の紫外線を一番多く受ける部位であり、非常に耐久性が求められます。紫外線による塗膜の劣化によって遮熱性能が発揮され難くなるとともに、外観も損ねてしまいます。パラサーモシリーズは当社独自の技術により開発・改良されており、長期間にわたって遮熱性能・美観の維持が可能です。

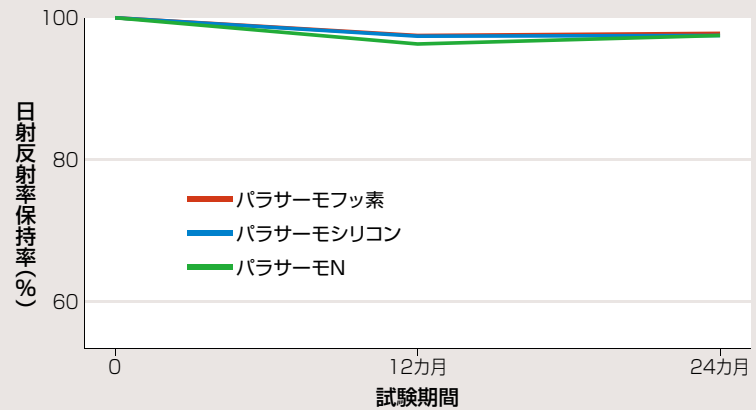


▲屋外曝露試験状況

長期的に日射反射率を保持

●日射反射率保持率実暴露試験結果

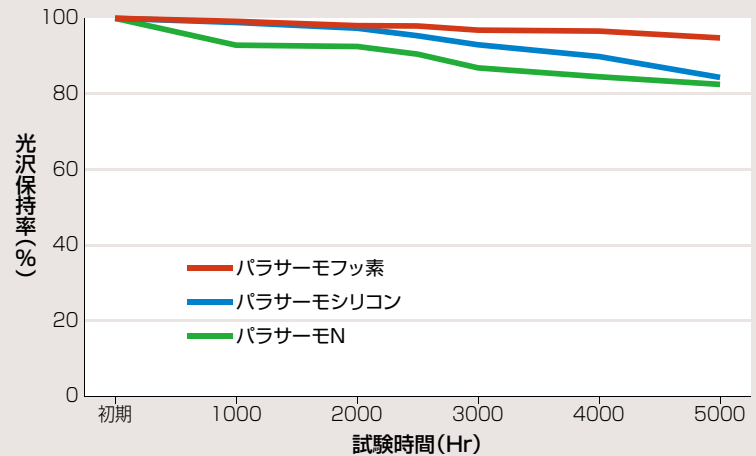
千葉県銚子市試験場での暴露データ(24ヶ月)



初期の塗膜と比較して、経時とともに汚れの付着や塗膜の劣化などの要因によって、どの程度遮熱性能が変化するかを確認する試験。

安定した光沢保持率

●促進耐候性試験結果(キセノンランプ法)



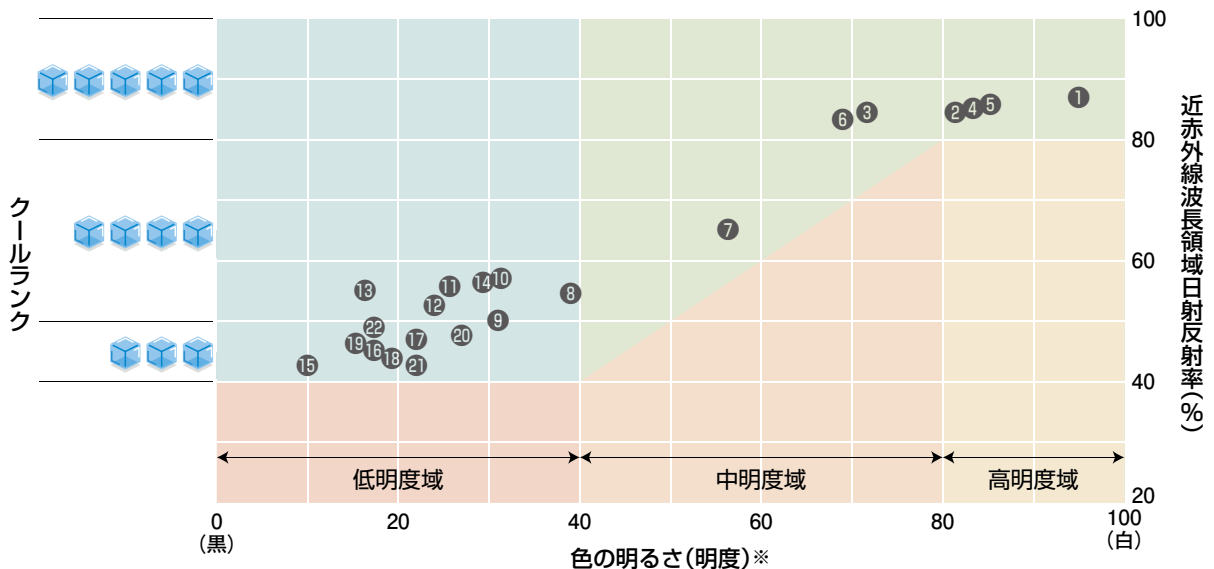
キセノンランプ試験は、塗膜の劣化の主な要因の一つである太陽光に近い人工光源を用いた試験。耐候性を評価するため、屋外暴露試験と併用されることが多い。

特長
4

色の明るさ(明度)と日射反射率の関係

遮熱塗料と言えども、色の明るさ(明度)によって日射反射率は変わります。建物の外観を損なわないよう色をイメージしつつ、22色(パラサーモNは15色)からお選びください。

●近赤外線長領域の日射反射率(%)



構成製品一覧

品種	製品名	色	荷姿	成分、組成
上塗り	パラサーモフッ素	22色	16kgセット(A液:14kg B液:2kg)※①	2液弱溶剤フッ素樹脂
	パラサーモシリコン	22色	16kgセット(A液:14kg B液:2kg)※①	2液弱溶剤シリコン樹脂
	パラサーモン	15色	16kgセット(A液:14kg B液:2kg)	2液弱溶剤ウレタン樹脂
万能下塗り	エポラオールプライマー	遮熱ホワイト※②	16kgセット(A液:14kg B液:2kg) 4kgセット(A液:3.5kg B液:0.5kg)	2液弱溶剤エポキシ樹脂(遮熱タイプ)
	エポラオールプライマー	グレー 赤サビ・黒サビ	16kgセット(A液:14kg B液:2kg) 4kgセット(A液:3.5kg B液:0.5kg)	2液弱溶剤エポキシ樹脂
特殊下塗り	塩ビ鋼板用プライマー	茶色	12.6kgセット(A液:12kg B液:0.6kg)	2液溶剤特殊ウレタン樹脂
窯業系下塗り	エポラマイルドプライマーS	クリアー	28kgセット(A液:14kg B液:14kg) 14kgセット(A液:7kg B液:7kg)	2液弱溶剤エポキシ樹脂
金属系下塗り	エポラ#1遮熱プライマー	淡ブルー	16kg	1液弱溶剤エポキシ樹脂
	エポラ#3プライマー	白、赤サビ	16.5kgセット(A液:15kg B液:1.5kg)	2液溶剤エポキシ樹脂
希釈剤	NT塗料用シンナーA	—	16ℓ、4ℓ	—
特殊添加骨材	PSパウダー	—	16kg(4kg×4袋)	特殊セメント骨材
上塗り硬化促進剤	弱溶剤トップ硬化促進剤※③	—	1kg	—

※①: B液には「猛暑型B液」もあります(35℃以上の場合)。 ※②: 遮熱タイプのため割高になります。
 ※③: 弱溶剤トップ硬化促進剤はA液14kgに対して100g添加してご使用ください。

標準塗装仕様

● 使用量、塗り面積は希釈量(シンナー)を含んでおりません。

● 上塗り一覧表

工程	材料の調合 (重量比)	塗り回数	施工方法	可使時間 (23℃)	使用量 (kg/m ² /回)	1回当たりの 塗り面積	施工間隔 (23℃)
上塗り 右のいずれかをお選びください。	●パラサーモフッ素 A液……………14kg ●パラサーモフッ素 B液……………2kg ●NT塗料用シンナーA……………0~1kg	2回	●ローラー ●刷毛 ●スプレー	6時間以内	0.13~0.16	100~123 m ² /セット	3時間以上 72時間以内
	●パラサーモシリコン A液……………14kg ●パラサーモシリコン B液……………2kg ●NT塗料用シンナーA……………0~1kg						
	●パラサーモン A液……………14kg ●パラサーモン B液……………2kg ●NT塗料用シンナーA……………0~1kg						

- パラサーモフッ素、パラサーモシリコン、パラサーモンをスプレー塗装する場合の希釈は16kgセットに対して0~2kgとしてください。
- 上塗りの各塗料は、夏場、暑さで可使時間が短くなり「2時間」程度になります。夏場はA液とB液の攪拌後、必ず「2時間以内」に使い切るようにしてください。
- パラサーモフッ素、パラサーモシリコンは、35℃以上の場合、猛暑型B液をご使用ください。
- 冬季は硬化を早めるために弱溶剤トップ硬化促進剤を使用することも可能です。使用方法は、上塗りA液14kgに対して、弱溶剤トップ硬化促進剤100g、秤で計量し添加後、攪拌します。続いてB液を配合し、電動攪拌機で充分に攪拌してご使用ください。



屋根材の種類と推奨仕様

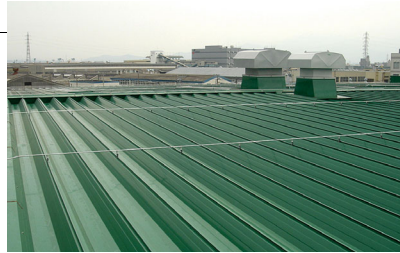
ニットの屋根用遮熱塗料シリーズは、さまざまな屋根材に塗装できます。一般的によく使われている屋根材の種類と推奨の塗り替え仕様を紹介します。

一般金属系屋根材

カラー鋼板

金属屋根素材に焼き付け塗装されているものが一般的です。

※フッ素鋼板の場合は最寄りの当社営業所にお問い合わせください。



無塗装ガルバリウム鋼板



▲表面拡大



表面に結晶模様が見えます。新設の場合には表面の脱脂と目粗しが必要です。

※遮熱塗装をする際、特に中彩色や濃色を施工しますと、塗装前より温度が高くなる可能性があります。遮熱塗料は目安としてクールランク5の色相を塗装してください。

一般窯業系屋根材

薄形化粧スレート瓦(カラーベスト、コロニアルなど)

メーカーにより形状もさまざまで名称も異なりますが、厚みが5~10mmの薄形のスレート瓦です。軽量でバリエーションも豊富なため、広く普及している屋根材です。



▲カラーベスト

厚形スレート瓦



セメントと化学繊維をプレス成形した瓦です。和形、洋形さまざまな形状があります。

波形スレート



工場や倉庫の屋根などに多く使われている屋根材です。

※新設には塗装できません。
※ノンアスベストの波形スレートの場合は最寄りの当社営業所までお問い合わせください。

金属系屋根材(塩ビ鋼板屋根材)

①塩ビ鋼板屋根塗り替え仕様

工程	材料の調合 (重量比)	塗り回数	施工方法	可使時間	使用量	セット当たりの塗り面積	施工間隔
素地調整	●高圧水洗(10~15MPa)やワイヤーブラシなどで表面の塵、ホコリ類を完全に除去してください。 ●水洗い後は十分に素地を乾燥させてください。						
下塗り	●塩ビ鋼板用プライマー A材……………12kg ●" " B材……………0.6kg (原液のまま使用してください)	1回	●ローラー ●刷毛	—	0.1~0.12 kg/m ² /回	105~126 m ² /セット	2時間以上 6時間以内 (23℃)
上塗り	●上塗りは別表「上塗り一覧表」よりお選びください。						

- 下地のチョーキング塗膜は高圧水洗で除去してください。チョーキングが激しい場合、洗浄ができない場合はマジックロンなどでチョーキング膜を除去してください。
- 下塗りはローラーでしごくように塗装してください。しごいて塗装することでチョーキング塗膜を溶解・復元し、プライマーに混合させます。
- 下塗りは厚く塗りすぎないように塗布量を厳守してください。塗料のたれ、たまりは剥離の原因となります。
- 下塗りと上塗り1回目までは同一日に塗装してください。塗装間隔を延長しますと上塗りとの密着が悪くなります。下塗りと上塗りとの塗装間隔を厳守してください。
- 外気温が30℃以上の場合は、1時間以内に上塗りを塗布してください。

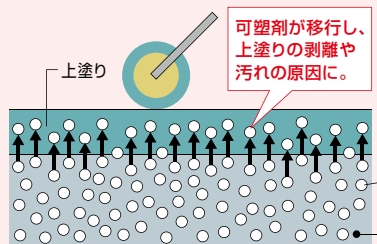
塩ビ鋼板



塩ビ被覆に可塑剤が多く含まれており、また劣化が進むとチョーキング層も厚く緻密になるため、特殊なプライマーが必要になります。

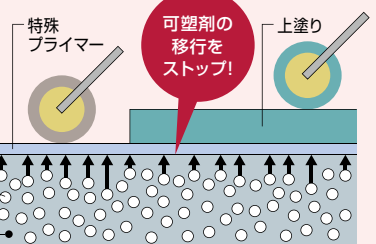
従来の塗装

塗装しても塩ビフィルム中の可塑剤が塗膜に移行し、上塗りの剥離や汚れの原因になります。塩ビ鋼板と塗替えた塗膜の耐久性も低下します。



塩ビ鋼板塗り替え工法

塩ビフィルムからの可塑剤の移行を止め、汚れを防止します。また、塩ビ鋼板と塗替え塗膜の耐久性を維持します。



●それぞれの仕様に記載している使用量、塗り面積は希釈量(シンナー、水)を含んでおりません。

一般窯業系屋根材、一般金属系屋根材

②標準塗装仕様 窯業系下地(新生瓦、スレート屋根など)仕様 金属屋根下地(折板、瓦棒、トタンなど)屋根塗替仕様

工程	材料の調合 (重量比)	塗り 回数	施工方法	可使時間 (23℃)	使用量 (kg/m ² /回)	1回当たりの 塗り面積	施工間隔 (23℃)
素地調整 右のいずれかを お選びください。	窯業系 下地	●表面の塵、ホコリ、コケや既存塗膜の浮き、ハガレなどは、高圧水洗やワイヤーブラシなどで完全に除去してください。 ●水洗い後は十分に素地を乾燥させてください。					
	金属系 下地	●フクレ、割れ、浮きなどの劣化塗膜はケレン工具を用いて除去してください。 ●サビは電動工具やサンドペーパーなどを用いて除去し、被塗面を清掃してください。 ●被塗面の表面の塵、ホコリ、油脂類はシンナーや高圧水洗などで完全に除去し、乾燥した清浄な面にしてください。					
下塗り	●エポラオールプライマー A液 …… 14kg ●エポラオールプライマー B液 …… 2kg	1回	●ローラー ●刷毛 ●スプレー	6時間以内	0.13~0.16	100~123 m ² /セット	3時間以上 72時間以内
上塗り	●上塗りは別表「上塗り一覧表」よりお選びください。						

- 屋根材の重なり部分は縁切りを行なってください。漏水の原因となります。
- 金属屋根の補修塗り、下塗りには1液タイプの「エポラ#1プライマー」もご使用いただけます。
- ガルバリウム鋼板の補修塗り、下塗りには「エポラ#3プライマー」もご使用いただけます。
- 新設のガルバリウム鋼板は油分が付着している場合がありますので、脱脂と目粗しを行なってください。

③窯業系下地(吸い込みの激しい場合)屋根塗替仕様

工程	材料の調合 (重量比)	塗り 回数	施工方法	可使時間 (23℃)	使用量 (kg/m ² /回)	1回当たりの 塗り面積	施工間隔 (23℃)
素地調整	●表面の塵、ホコリ、コケや既存塗膜の浮き、ハガレなどは、高圧水洗やワイヤーブラシなどで完全に除去してください。 ●水洗い後は十分に素地を乾燥させてください。						
下塗り	●エポラマイルドプライマーS A液 ……7kg ●エポラマイルドプライマーS B液 ……7kg	1回	●ローラー ●刷毛 ●スプレー	6時間以内	0.14~0.16	87.5~100 m ² /セット	2時間以上 72時間以内
上塗り	●上塗りは別表「上塗り一覧表」よりお選びください。						

- 下地の劣化が激しく吸い込みが多い場合は、施工間隔(2~72時間)をあけて、下塗り2回目を施工してください。

④エポラオールプライマー厚膜仕様(不陸調整が必要な厚形スレートなどの窯業系屋根材)

工程	材料の調合 (重量比)	施工方法	可使時間 (23℃)	使用量 (kg/m ²)	施工間隔 (23℃)
素地調整	●表面の塵、ホコリ、コケや既存塗膜の浮き、ハガレなどは、高圧水洗やワイヤーブラシなどで完全に除去してください。 ●水洗い後は十分に素地を乾燥させてください。				
下塗り	●エポラオールプライマー A液 …… 14kg ●エポラオールプライマー B液 …… 2kg ●PSパウダー …… 4kg ※塗膜厚確保のため、できる限り無希釈施工をお勧め致します。	●スプレー※ ●ローラー	6時間以内	0.15~0.8 ※ローラーは 2~3回塗りを推奨	12時間以上 72時間以内
上塗り	●上塗りは別表「上塗り一覧表」よりお選びください。				

※エアレス機器と
ガンチップ口径目安

エアレス本体型番	最大吐出圧力(ℓ/mm)	最大吐出圧(Mpa)	チップ口径例(mm)
ワグナー-SF1500	4.5	23	タイタンチップC(41) (0.43-0.88)
セイワ スーパー60L	6.0	22	フリーパターンチップ041 (0.45~0.9)
ライトスーパー-LSP60	6.0	22	

エポラオールプライマー厚膜 混練方法



- ①A液とB液をあらかじめ調合します。
 - ②A液とB液を攪拌機を使用してよく混ぜます。
 - ③さらにPSパウダー(4kg×1袋)を混合し、攪拌機を使用してよく混ぜます。
 - ④60メッシュの濾過網で濾過します。
 - ⑤濾過すると塗料中のブツ(まご)が採れます。濾過した塗料で塗装してください。
- ※PSパウダーを入れる前に、必ずA液とB液を混合してください。

施工上の注意事項

●素地調整について

- ①高圧水洗機やスプレー塗装では、施工中のミスト飛散防止のため、十分に養生を行なってください。
- ②高圧水洗機で清掃ができない場合はホースで水を流しながらワイヤーブラシなどを用いて塵、ホコリ、苔類を完全に除去してください。
- ③水洗後は1日以上乾燥させてください。雨や露などで濡れている場合も十分に乾燥してから塗装してください。

●塗料と塗装について

- ①仕様書に書かれている数値は標準的なものであり、素地の状態、形状、施工条件、気象条件などにより多少の幅が生じることがあります。
- ②屋根表面を水洗いした後雨や露、霜で濡れているときは十分に乾燥させてから塗装してください。
- ③塗装後翌日までに降雨、降雪が予想される場合や気温が5℃未満、湿度80%以上の塗装は避けてください。艶引けや塗膜物性低下の原因になります。未乾燥状態で降雨や夜露にあたる艶引けや白化などの原因につながります。
- ④夏季、炎天下でエアレスホース内に塗料を入れたまま放置しますと、つまりの原因となります。
- ⑤気温が5℃以上で塗装は可能としておりますが、気温が低い場合は塗膜の乾燥に時間がかかりますので施工間隔が変わります。
- ⑥冬季は、硬化を早めるために弱溶剤トップ硬化促進剤を使用することも可能です。その際、攪拌不足は、塗膜の硬化が場所によって異なり不具合が発生することがあります。また、弱溶剤トップ硬化促進剤を使用すると可使時間が短くなります。
- ⑦弱溶剤トップコート促進剤は冬季用です。次工程までの塗装間隔を短縮する目的で使用しないでください。
- ⑧塗料は必ず規定配合比で調合し、電動攪拌機などで十分に攪拌してから施工してください。規定配合比で混合されないと、本来の塗膜性能が発現しない場合や、仕上がりが悪くなる場合があります。
- ⑨規定の使用量が塗られていない場合、本来の塗膜性能が発現しない場合がありますので規定量を守って塗装してください。早期の耐候性低下や剥離などにつながります。
- ⑩他の塗料との混合は絶対に行わないでください。
- ⑪水、アルコール系の溶剤の混入は避けてください。
- ⑫塗料を小分けして使用する場合はA液を十分に攪拌して均一の状態にしてから分けてください。色ムラなどの要因となります。
- ⑬遮熱塗料は特殊な顔料を使用しています。このため、シンナーの希釈量や使用量が多すぎたり、少なすぎたりすると、色相が変化して見えます。特に上塗り1回目終了段階では使用量が足りないため、色相が変化して見えます。また、遮熱性能や耐候性が低下することもありますので、シンナー希釈量や塗布量など塗装仕様を厳守して施工してください。
- ⑭材料は直射日光を避け、雨露の当たらない冷暗所に保管してください。
- ⑮シーリング面への塗装は極力避けてください。塗膜の汚れやワレの要因となります。
- ⑯塗装方法が混在する場合、使用量、表面肌が異なることで若干の色の差がでることがあります。
- ⑰ローラー塗装の場合、ローラー目は同一方向に揃えるように行ってください。ローラー目の方向により色や仕上がりが異なって見える場合があります。

- ⑱油分が付着している場合は溶剤拭きを行なってください。
- ⑲除錆部は、ワイヤーブラシやサンドペーパー、電動工具で入念にサビを除去し、時間を空けて金属用プライマーを拾い塗りしてください。サビが残っているとサビが出やすくなります。また、クレン後、水分によりサビが発生する場合がありますので早めに拾い塗りをしてください。
- ⑳塗料の希釈はNT塗料用シンナーAをご使用ください。他のシンナーを使用すると著しい粘度低下、本来の色艶がでない場合があります。また、過剰希釈しますと隠蔽不足、色艶の低下、外観不良、耐候性低下などの要因となります。
- ㉑溶剤系の塗料およびシンナーは引火性がありますので、冷暗所に保存し、取り扱いの際は火気に充分ご注意ください。また、衛生上、塗装の際に有機溶剤の蒸気を吸わないようにご注意ください。
- ㉒パラサーモシリーズの各仕様で硬化が不十分な状態で塗装しますとリフティング(塗膜のチリ)を起こす場合があります。
- ㉓瓦棟や波形トタン屋根などの塗装で山の部分や折り曲げ部分などは塗料が付きにくいので、膜厚が薄くなりがちです。先に拾い塗りをするなどして全体に均一な膜厚になるよう注意してください。
- ㉔屋根材の重なり部分に塗料がたまるなど漏れ水などの原因になりますので、必ず縁切りを行なってください。瓦の上下にすき間がないと通気が不十分になり、結露水などの影響により、漏水や素材の腐食、塗膜剥離、フクレなどの不具合が発生する場合があります。
- ㉕塗装機具は使用後速やかにラッカーシンナーなどで洗浄してください。
- ㉖いずれの塗料も粘土瓦への施工はできません。また、モニエル瓦、スカンジア瓦などの乾式瓦は専用プライマーをご使用ください。
- ㉗無石綿スレート板に塗装する場合は、反りやひび割れ、フクレなどが発生する場合があります。
- ㉘パラサーモシリーズはカタログの仕様では可使時間が「6時間以内(23℃)」となっておりますが、夏場の暑さで可使時間が短くなり「2時間」程度になることもあります。夏場はA液とB液の攪拌後、必ず「2時間以内」に使い切るようにしてください。
- ㉙塗装色より既存塗膜の色が薄い場合、遮熱(温度低減)効果が得られないケースもありますのでご注意ください。また、色相により遮熱効果が変わります。
- ㉚標準色以外をご指定された場合、褪色が早い場合や、塗膜性能が低下する可能性があります。
- ㉛遮熱塗料では、特殊顔料を使用していますので、経年劣化による褪色の傾向が一般塗料と異なる場合があります。
- ㉜保管時、運搬時は塗料の漏洩の原因になりますので、横倒しや逆さまにしないでください。
- ㉝一般産業屋根材の劣化状態や吸い込みが激しい場合、上塗り1回目の塗装後、置換泡が発生することがあります。プライマーを2回塗装することで、この置換泡を抑制することができます。また、上塗り1回目の塗装で置換泡が発生した場合は、乾燥前にローラーで表面を軽く押さえることで対策することも可能です。
- ㉞エポラオールプライマーなど下塗りにつきましては、それぞれのパンフレット等をご参照ください。

取り扱い上の注意事項

(よく読んでご使用ください)

- 本塗料を使用する際は、カタログや施工上の注意事項、取り扱い注意事項、仕様をお読みになり、ご理解のうえ、お取り扱いください。
- 火気のあるところでは、絶対に使用しないでください。
- 万一、火災が発生した場合はABC粉末消火器を用いてください。水は使用しないでください。
- 施工中、乾燥中ともに換気を充分に行ない、ミストや蒸気を吸い込まないようにしてください。
- 取り扱い中はできるだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて有機ガス防毒マスク、手袋および前掛けなどの保護具を着用してください。
- 取り扱い作業中、容器からこぼれないよう注意してください。こぼれた場合は直ちに布やウエスで拭き取るか、砂などを散布したのち処理してください。
- 材料の付着した布やウエスなどは自然発火や引火の危険性があるため、廃棄するまで水につけておいてください。
- 容器はつり上げないでください。止むを得ずつり上げるときには、適切なつり具で垂直に持ち上げ、落下に充分注意してください(偏荷重になると取っ手が外れ、落下する危険性があります)。
- 取り扱い後は手洗いおよびうがいを充分に行なってください。

- 目に入った場合は多量の水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けてください。
- 誤って飲み込んだ場合はできるだけ早く医師の診察を受けてください。
- 材料が皮膚に付着し、痛みや外観変化があるときは医師の診察を受けてください。
- 蒸気やガスを吸い込んで気分が悪くなった場合は空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けてください。
- 保管は必ずフタをし、降雨や夜露、直射日光の当たらない冷暗所に保管してください。
- 硬化剤、B液は湿気で硬化しますので密栓して保管してください。
- 子供の手の届かないところに保管してください。
- 中身を使いきってから廃棄してください。また、廃液・汚泥などは関係法規に基づき、自社で適正に処理するか、産業廃棄物処理業者に委託して処理してください。
- 本製品は環境に配慮した材料を用いていますが、ご使用いただいたすべての人の健康状態を保証するものではありません。
- 本製品をお取り扱いの場合は、消防法や労働安全衛生法などの法令を遵守してご使用、保管を行なってください。
- 詳細は警告ラベル、または安全データシート(SDS)をご参照ください。

*製品改良のため、仕様などを予告なしに変更することもあります。ご了承ください。

*本記載の仕様は標準仕様です。塗装条件により、施工間隔などは変化します。

【その他、ご不明な点がございましたら、最寄りの営業所へお問い合わせください】

日本特殊塗料株式会社

■代理店

■お問い合わせ先

東京営業所	〒114-8584 東京都北区王子3-23-2	☎(03)3913-6203	FAX(03)3913-6323
神奈川営業所	〒254-8503 神奈川県平塚市長瀬1-10	☎(0463)23-2135	FAX(0463)23-3739
中部営業所	〒472-0006 愛知県知立市山町東並木北12	☎(0566)81-8111	FAX(0566)81-8124
大阪営業所	〒565-0853 大阪府吹田市春日1-4-12	☎(06)6386-8492	FAX(06)6338-3560
中四国営業所	〒739-0025 広島県東広島市西条中央4-3-13	☎(082)423-8231	FAX(082)423-8256
九州営業所	〒849-0112 佐賀県三養基郡みやき町江口4726	☎(0942)89-5766	FAX(0942)89-5762

●日本特殊塗料ホームページ <https://www.nttoryo.co.jp/>

PCCS-0621JX1.5-[DS/PNN] #1 [2021年6月作成] 定価600円(税抜き)